第11回神奈川国際芸術フェスティバル

dance today 12 演算するからだ展

ネット座談会 アルゴリズムはマシンの夢を見るか？

中ザワヒデキ：美術家。ここでは作家代表として
鶴見幸代：作曲家。方法マシン代表。ここでは出演者代表として
三輪眞弘：作曲家。ここでは監修者として

（2004年9月22日深夜0時、某サーバー内チャットルームにて）

アルゴリズムに「感情」が潜んでいる

鶴　見　きょうは、練習を兼ねて『純粋詩ウォーキング』で銭湯に行ってきました。

中ザワ　『純粋詩ウォーキング』、街なかで独りでやるの勇気いりませんか？

鶴　見　人通りが少ない夜を狙うので大丈夫です。山手通りを越える時が、一番興奮します。

中ザワ　『純粋詩』自体は興奮的要素は持ってないと思うけど、リアライズの時点でいろいろ感情的要因は入るんですね？

鶴　見　興奮したり、面白いと感じたり、ナチュラルハイになったりすることで、方法マシンにとって士気が高まることがあります。ナチュラルハイが一番理想かな。匿名を感じるときです。こういう感覚って、音楽的なのかなあ。三輪さんはどうですか？

三　輪　音楽がパフォーマンスを前提としているというならば、音楽的と言えるかもしれない。

中ザワ　それとも、本当は『純粋詩』自体にも感情があるのかしら･･･なんて･･･。

鶴　見　作者の松井茂さんがね、本当は興奮してるのかも。

三　輪　その興奮が詩から生まれてくるものか、ということですね？

中ザワ　しかし、あのような作品では作者もアルゴリズム※註1 に支配されているので、では、アルゴリズム自体に感情等が潜むということかしら？

三　輪　ぼく自身は一応、仮定をたてています。つまり、アルゴリズムに支配されている以上、そこに感情が潜む余地はない。しかし、それを生身の人間が行為するときに感情が「潜めない」余地もない、と。無感情に人間は決して行為できない、ということです。

鶴　見　アルゴリズム自身に感情があるかというのは？

中ザワ　「無感情に人間は決して行為できない」ことは認めるとして、では、機械に「行為」させると機械は感情をもつかな？

三　輪　ううっ･･！わかった。「機械が感情を持つ」といえばいろいろ無理が起きるわけだけど、それを人間がそこで見ているというのであれば、そう言っても間違ってはいないと思う。

中ザワ　いや、僕は機械が感情をもつと思うのです。でも反対に人間は感情を捨てることもまたできるかも。

鶴　見　「2001年宇宙の旅」のHALは人を殺したね。※註2

三　輪　なるほど。

中ザワ　アルゴリズムが演奏主体に感情を要請したりしていることはあるかもしれないね。で、HALは使命というアルゴリズムを持たされていた。

三　輪　感情のアルゴリズム？

中ザワ　自己つっこみだけど、使命だと「作者の意図を解釈して演奏」みたいなかんじかな。でもアルゴリズムというと、もうちょっと機械的な「手順」だから、HALほど頭良くなくていいかも。

鶴　見　アルゴリズムによって、人間が感情を捨てることはできるというのには賛成します。

中ザワ　以前京都で実施した僕の「金額」に関しては、コインを並べるその単純作業が、ボランティアさんたちを虜にしました。※註3 ボランティアさんたちは機械ではないけど、でも、単純なアルゴリズムが、さっき鶴見さんが言ったように「高揚」をもたらすということは、どう考えればいいのかな。

三　輪　ゼッタイに間違えてはいけないことをゼッタイに間違えないでやれる境地には大いなる自由があるよね。

鶴　見　音楽演奏は表情をつけるけど、あれは楽譜から得た表情で、その人自身が悲しかったり、盛り上がったりしてるわけではない。

中ザワ　ああ、マチスが似たようなことを言ってますね。感情を表すために怒った顔を描いたりヤサシイ顔を描いたりではなく、色面の量とかバランスとかで表現するとか。

三　輪　似た話かもしれないね。良い肖像画は、無表情の中にその人の喜怒哀楽の顔がたたみ込まれている。

中ザワ　さっきの話だと、「アルゴリズムによって、人間が感情を捨てる」ということは、自由を感じたりしてむしろ不可能だったりするのかも。

鶴　見　感情と興奮と高揚と自由と匿名とナチュラルハイの違いがよくわからなくなってしまいました。

中ザワ　あまりないかも。

三　輪　からだが覚えるところまで行けばね･･･。

鶴　見　よく、演奏家もスポーツ選手も、「楽しんでやろうと思います」とか、「とても楽しくできました」とか言うよね。

演奏と演算

三　輪　機械が感情を持つ、という中ザワさんの発言がそのままになっているんだけど。

中ザワ　演奏と演算の違いの話が、たぶん、機械が感情を持つ話につながるのでは。演奏は感情を作者に強制されるけど、演算は手順、あるいは肉体＝機械から感情が表出するのでは、という仮説。

鶴　見　わー、なるほどー。

中ザワ　つまり感情が肉体を動かすのが演奏だとしたら、演算は肉体が感情を惹起する話かも。でも、それは演算の目的ではないはずなんだけど 。

三　輪　きゃー、ステキ! でも、ぼくにとって（それ）は確信ですね。

中ザワ　作者代表（笑）としては、演算が惹起する感情は作品の目的ではない。しかし、最初の鶴見さんの言った「高揚」とかは、方法マシンのみなさんにとってはかなり「楽しくやってます」みたいな動機付けになるのかな。

三　輪　つまり、演奏は作家の感情に必ず拘束される? そうなると、作家って何をした人ということになるのだろう。

中ザワ　楽譜に表情記号が書かれているかぎり、演奏は作家の感情に必ず拘束される。

鶴　見　マシンは、演奏としての感情も、演算をすることによって出る感情もどちらもが混ざってしまっていると思います。

三　輪　ふつう演奏の場合は作家の真意なるものを読みとるのが解釈というわけだけど、 演算の場合の解釈ってなに?『純粋詩』の場合は??

鶴　見　アルゴリズム自身を解釈することはないです。そして今のところ、『純粋詩』が詩になっているので、それに従うだけの、むしろ「演奏」に近い状況といえます。詩になっていなければ、「演算」はできますが、こうなると詩ではなくなります。

中ザワ　『純粋詩』は記譜された逆シミュレーションみたいなものだから、そうかもしれないですね。で、『純粋詩』でないものでは、演算の場合の解釈とは、肉体生理（＝機械生理）のことばに翻訳することが原義だったように思います。※註4

三　輪　従うわけだけど、その向こうに作家の感情は見えない･･･。さて、その肉体生理のことば、とは?

中ザワ　いやいや、「肉体生理」だけでいいかも。生理の要請。手が二本あるなら二本とも使いたい、とか。

肉体が作品を要請する

三　輪　足は背中につかない、とか･･･。

中ザワ　そうそう。で、「肉体生理（＝機械生理）に翻訳」ということが、すなわち快楽とか高揚とか匿名とかに直結しますね、きっと。

三　輪　4桁どうしのかけ算はできないというのは?

中ザワ　それも頭肉体（あたまにくたい）の生理かな。

鶴　見　けど、新しい肉体生理をつくるのが、狙いですよね。方法マシンの。

三　輪　中国雑伎団のプリマが背中に足をつけてみせたらどうなるんだろう? 方法マシンも背中に足をつけてみせる?

鶴　見　そうでもないなあ。

中ザワ　すると今度は肉体が演算を要求するという局面の話になりますね。

三　輪　（笑）

鶴　見　方法マシンの即興演奏としてなら、肉体からの要求をマシンから出せるかも。中ザワさん、作品つくってください!方法マシンは作品つくれないので。※註5

中ザワ　はっ、委嘱されました（笑）。実は近代体操とか筋トレとかって、肉体が要請する作品ですよね。で、ハノン※註6 もそういう意味で作品として認知したいですよね。

三　輪　中ザワさん、以前からハノンに注目してましたね。

鶴　見　「二人またり」※註7 なんかは、ハノンのような位置付けです。

中ザワ　なるほど、二人またりも芸術作品として独立させるのはいかが?

三　輪　練習曲というのは身体的訓練を目的とした楽曲だから、練習それ自体が目的化してるということ?

中ザワ　そうそう。

鶴　見　本当は準備運動なんだと思います。

三　輪　準備運動が作品なのだ、と言い張る?

中ザワ　「準備」の語を「目的」に言い換えてもいいかと思います。ちょっと作家としての興味的な話題。肉体を目的として演算を作り、その演算を目的とする肉体を作る。こういう同語反復的な状態を作りたいですね。

三　輪　でた、方法主義※註8!（ちゃちゃばっかり･･）でもね、「作家としての興味的な話題」と本当は思っていないでしょう? 実はかなり広がりをもったものだと考えているのでしょう?

中ザワ　というか、演奏代表に対して作家代表的立場としては、というつもりでした。「広がり」に関しては、先細りと一般的に見られやすいのにあえて「広がり」と主張するつもりもないけど、「先細り」を否定要素と考えてないということは言っておきたいかな。

鶴　見　ちょっと休憩してもいいですか。

中ザワ　はい。

三　輪　5分お休み!

（･･･5分後）

「揃える」ことについて

鶴　見　帰ってきました。久しぶりにハノンの音階ひいてリラックスしました。

三　輪　夜中の1時半にハノン弾いてた･･･!

三　輪　方法マシンのことだけど、みんなは何に惹かれて、というか興味を持って参加を決意したんだろう?

鶴　見　新しい肉体をつくることに興味があったのは、皆に共通する興味だったと思います。が、さまざまな解釈をするうちに、たいして新しくもない体の使い方、動かし方のほうが多くなる傾向にあります。スパルタでダラダラやる、みたいな。それが良いことか、悪いことか、まだ掴めていません。

三　輪　スパルタでだらだら?

鶴　見　例えば、『純粋詩』に関しては･･･。

三　輪　結構みんなやるときは集中してるよね。

鶴　見　全員のフォームをぴったり揃えて誤差なく動くよりは、個の動きに重点をおいています。

三　輪　全員がぴったり揃っていればいい、ということではない?

鶴　見　あ、でもそれは、作品毎に異なります。

三　輪　きれいに揃うことより大切な部分があるということ?

鶴　見　形は揃わなくても、お互いの動きに集中しないとできない解釈が多くあります。ひとりで勝手に動くことはないんです。

三　輪　なるほど。お互いの関係に集中するわけですね。

中ザワ　他者に見せるための「マシン」ではなくて、自律的な「マシン」になりつつあるということ?

鶴　見　そうともいえます。

三　輪　揃って動くことと関係あると思うけど、それを見られる／見せるということはどうなんだろう?

鶴　見　形が揃ってなくても、互いの意識の仕方によって、よい見た目になるんです。特に、方法マシンはバラバラの個が集まっているので、形を揃えるのはとても大変です。

中ザワ　んー、それを「形式美」ではなく「方法美」と呼びましょうか?（笑）

鶴　見　何度か練習を繰り返すうち、この問題点がクリアになってきたんです。まあ、もっともっと練習すれば、ぴったり揃うのも可能だろうし、これを捨てたわけではありません。

中ザワ　作家の立場としても、形式美にうったえるために「方法」を採用しているのではないなー、僕の場合。

三　輪　例えば背が高い人低い人、まったく揃ってないし揃えようともしていないですよね。形式美を求めるなら、ある程度そのようなことも揃えないとならない。

鶴　見　親の代まで調査しないとならない。でも、公演をするからには、っていう問題は、三輪さんにとって、心配ですか?

三　輪　心配ではありません。いつか言ったと思うのだけど、見栄えのための「演出」はいらない。だけど、みんなばらばらでも「今すぐ誰でもできます」というわけでもゼッタイにない。何の役にも立たないかもしれないけど、新しいからだを持った集団がここに生まれていることが大切。

中ザワ　神様にも奉納している三輪さん※註9 にとっては、神の思し召しをおもんぱかるのも大変? 方法美を解してくれる神様だといいのかな。

マシンだって故郷がほしい

鶴　見　方法マシンの士気を高めるための、マシン歌が欲しいです。練習前にみんなで歌うの。

三　輪　ええっ!? 中ザワさん、また委嘱が来ましたよ!!

中ザワ　HALも最後に歌ってたしね!

鶴　見　HALの歌には泣けました・・・。

三　輪　歌詞はナンバーリーディングですか?

鶴　見　ナンバーじゃない。

三　輪　右翼系ですか?

中ザワ　なんばしとる? うよくょくせつ。

鶴　見　甲子園で歌えそうなのがいいです。

三　輪　方法マシンが全国大会で優勝したときに歌えるようなのね。それならぼくかも。でも故郷の山や川がないとだめなんだ。

鶴　見　故郷が欲しいです。

中ザワ　ではマシンが歌いたくなったところで、しめさば。

※註1 アルゴリズム：「手順」と訳される数学用語。コンピュータの処理手順、つまりプログラムを示す。

※註2 『2001年宇宙の旅』A.C.クラークのSF小説。木星に向かう宇宙船のメインコンピュータHAL9000が謎の行動を始め、トラブル回避のため電源を切ろうとする乗組員を殺す。1968年に映画化(S・キューブリック監督)。

※註3 2001年3月京都芸術センター「program_seed展」における「149101枚の硬貨から成る353100円(金額第二三番)」

※註4 方法マシン「趣意書」より。「美術家が自らの必然において描いた「絵画」を、詩人が自らの必然において書いた「詩」を、作曲家が自らの必然において創作した「音楽」を、「方法マシン」は自らの身体生理の必然において解釈し身体運動に変換する。」

※註5 「方法マシンの仕様」より。以下全文。

一、方法マシンは機械を自称する人間の集団である。

一、それ故方法マシンのメンバーは身体を練習によって鍛錬する。

一、方法マシンは三名の方法主義者と協力関係にある独立した集団である。

一、それ故方法マシンは三名の方法主義者以外の古今の作品も行う。

一、方法マシンは作品の創作ではなく、実現に特化した集団である。

一、それ故方法マシンはメンバーの創作した作品を行わない。

※註6 ハノン：ピアノを練習する多くの人が使う古典的な練習曲。単純で機械的かつ規則的な指の運動を鍛える。

※註7 二人またり：「またりさま」訓練のため開発されたドリルのひとつ。演奏者ふたりが、肩たたきの要領で練習する。一人が解答表を持って出題、もう一方の解答をチェックしながら進める。

※註8 方法主義：2000年1月1日に美術家・中ザワヒデキ、詩人・松井茂、音楽家・足立智美によって宣言(『方法絵画、方法詩、方法音楽(方法主義宣言)』)。2002年より足立智美に代わって三輪眞弘が参画。Eメール機関誌「方法」発行。

※註9 神に奉納する三輪さん：近年、三輪は自身の作品を含め芸術表現とは神(?)に奉納し人々がそこに立ち会うものだと主張し、実際に、その場で書いたプログラムを走らせたまま消してしまう「パッチ奉納」などのパフォーマンスを行っている。